

製品名: AChR α 9 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06500**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	55kDa

抗原情報

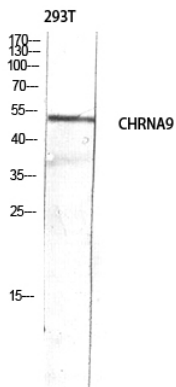
遺伝子名	CHRNA9
別名	Neuronal acetylcholine receptor subunit alpha-9 (Nicotinic acetylcholine receptor subunit alpha-9) (NACHR alpha-9)
遺伝子 ID	55584.0
SwissProt ID	Q9UGM1
免疫原	抗血清はヒト CHRNA9 の N 末端領域由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 50-100

背景

この遺伝子は、リガンド依存性イオンチャンネルファミリーおよびニコチン性アセチルコリン受容体遺伝子スーパーファミリーのメンバーです。ホモまたはヘテロオリゴマーの二価カチオンチャンネルを形成する細胞膜タンパク質をコードしています。このタンパク質は蝸牛有毛細胞の発達に関与しており、成体蝸牛の外有毛細胞（OHC）にも発現しています。[RefSeq 提供、2012年2月]、機能：聴覚刺激の調節において重要な役割を果たすと考えられるイオンチャンネル型受容体。アゴニスト結合は、全てのサブユニットに影響を及ぼす広範な構造変化を引き起こし、細胞膜を貫通するイオン伝導チャンネルの開口につながる可能性があります。このチャンネルはカルシウムを含む様々な二価カチオンに対して透過性があり、カルシウムの流入はカリウム電流を活性化し、細胞膜を過分極させる可能性があります。耳においては、これが基底膜の運動低下につながり、聴神経線維の活動を変化させ、動的聴力の範囲を狭める可能性があります。これは音響外傷から保護する可能性がある。また、セラチノサイトの接着を制御する可能性もある。、その他：CHRNA9とCHRNA10からなるヘテロオリゴマー受容体は、非定型的な薬理学的プロファイルを有し、ストリキニーネ（グリシン受容体拮抗薬）やアトロピン（ムスカリン性アセチルコリン受容体拮抗薬）など、いくつかの非ニコチン性リガンドに結合する。、類似性：リガンド依存性イオンチャンネル（TC 1.A.9）ファミリーに属する。、サブユニット：CHRNA10と共役してホモオリゴマーまたはヘテロオリゴマーチャンネルを形成できる。天然の外耳道有毛細胞受容体は、CHRNA9-CHRNA10ヘテロオリゴマーから構成されている可能性がある。、組織特異性：蝸牛、セラチノサイト、下垂体、B細胞、T細胞で発現する。、

研究分野

画像データ



CHRNA9抗体を用いた293T細胞溶解のウェスタンブロット解析。抗体は1:500に希釈。二次抗体は1:20000に希釈。